

令和4年度 冬季研修会



夏季 ICT 技術研修会に引き続き、冬季は知的障害教育における ICT 活用を考え、学校全体の専門性を高める取り組みを行うことを目的として研修会を行い、白桜高等学園、共栄分校の教職員もオンラインで参加しました。前半は、長野県長野養護学校の教諭でもあり、ドロップレット・プロジェクト(※1)、「Drop Talk」(※2)の開発者でもある青木高光氏を講師としてお招きして、「特別支援学校児童生徒への ICT 活用のあり方について～ドロップレット・プロジェクトの取り組みを通して～」という題目で講義をしていただきました。後半の演習では、Drop Tap(※3)の紹介および演習を行いました。

(※1 話し言葉によるコミュニケーションが苦手な障害児者に対して、目で見てわかる視覚支援シンボルライブラリを開発し、それによって障害のある方々が安心して活動できる環境づくりを目的としている。)

(※2 視覚シンボル「ドロップス」を使って、文章を作り、音声で読み上げるアプリケーションソフト。)

(※3 ドロップレット・プロジェクトが開発した新しいコミュニケーション支援アプリ。話し言葉によるコミュニケーションが難しい人でも、シンボルと音声を使って他者とやりとりができるように作られた AAC(補助代替コミュニケーション)アプリ。)



講演「特別支援学校児童生徒への ICT 活用のあり方について」

～ドロップレット・プロジェクトの取り組みを通して～

講義では、GIGSA スクール構想、ICT 教育の意義、ドロップレット・プロジェクトの取り組みについて説明していただきました。特に、実際の活用例を映像や写真を使いながらの説明では、自分自身の指導の在り方を振り返りながら、どのように児童生徒に活用していけるか考えることができました。

演習では、タブレット端末を操作しながらコミュニケーションボードやスケジュール等を作成しました。DropTapは GIGA スクール端末に無償提供されており、本校の児童生徒用のタブレット端末にも入っているため、更に研修を積み、児童生徒に還元できるよう努めたいと思います。

研修後のアンケートでは、「普段の実践を振り返り、『コミュニケーションの大切さ』を改めて考える機会になった。」、「今回の研修で学んだことを、すぐに実践してみたい。」等の感想が多くあり、多くの教員に実りある研修になりました。



← ZOOM 配信で行われました。



← 各自、説明を聞きながら、Drop Tapを学んでいます。

グループに分かれ
演習の視聴→

